

2013年に発生した 福島第一原発港湾内への 汚染水漏洩の事例

2021年2月
水産庁

2013年に発生した福島第一原発専用港湾内への 汚染水漏洩の事例

- 2013年5月、1,2号機取水口間護岸地下水から高濃度のトリチウムが検出されたことを受け、東京電力が当該護岸に滞留する地下汚染水の調査を実施。2013年7月末、当該護岸から汚染水が港湾へ流出していることを確認。
- 港湾内の海水からは放射性物質が検出されていたものの、外側の海水ではほとんどが検出限界未満であり、影響は限定的。
- 東京電力は、2013年2月以降、港湾口に魚類移動防止用網を設置するとともに、港湾内に生息する魚類等の駆除を実施中。
- 海側遮水壁が閉合（2015年10月）後は、港湾内の海水中の放射性物質濃度がさらに低下。

【参考】2011年4月の汚染水漏洩と、東京電力が試算した2011年5月から2013年8月までの汚染水漏洩における放射性物質漏洩量の比較

放射性核種	2011年4月の漏洩量		東京電力の試算による 2011年5月以降の漏洩量	
	漏洩期間	漏洩量 (単位：Bq)	漏洩期間	漏洩量 (単位：Bq)
セシウム134+137	6日間	1,880兆	-	-
セシウム137	6日間	940兆	約800日間	約1兆～約20兆
ストロンチウム90（注）	-	-	約800日間	約7,000億～約10兆
トリチウム	-	-	約800日間	約20兆～約40兆

（注）ストロンチウム90については、1～4号機取水口内北側（東波除堤北側）で220Bq/L（2013/8/19採取）、
港湾口で49Bq/L（2013/8/19採取）、南放水口付近で0.29Bq/L（2013/6/26採取）検出。

（東京電力（株）作成資料を元に水産庁で編集）